

報道関係各位

2023年10月5日

アイペット損害保険株式会社

ペットロスに関する調査 ～ペットを亡くした方の約6割が「ペットロス」を経験～

アイペット損害保険株式会社(本社:東京都江東区、代表取締役 執行役員社長:安田敦子 以下、当社は、犬・猫(以下、「ペット」)を亡くした経験をお持ちで、現在はペットと一緒に暮らしていない1,000名を対象に、「ペットロス*に関する調査」を実施しました。

*本リリースでは、「ペットロス」を「愛するペットを失ったことによる、悲しみや喪失感と、それに伴い生じる心身の不調」と定義しています。

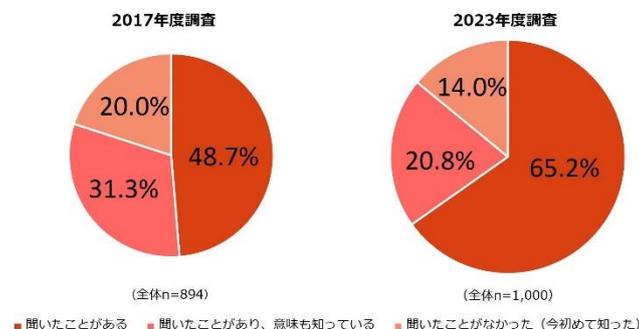
【調査結果概要】

- ◆**ペットを亡くした際「ペットロス」になった方は約6割、ペットロスの「自覚があった」方は7割超と、前回調査より大幅に増加。**悲しみを癒すきっかけは「**ペットを悼む気持ちを肯定**」すること
- ◆**亡くなったペットに後悔を感じている方は約6割、後悔なくお別れできた方の66.5%は「十分に一緒に時間を過ごすことができた」から**
- ◆**ペットを家族と捉える方は約8割、半数がペットとの生活に「学び」「楽しさや大きな喜び」を実感**

■「ペットロス」という言葉「聞いたことがある」方が65%超

「ペットロス」という言葉を聞いたことがあるかを尋ねたところ、「聞いたことがある」と回答した方が65.2%と最も多く、2017年の調査(以下、前回調査時)と比べ16.5ポイント増加しました。一方で、「聞いたことがあり、意味も知っている」と答えた方は前回調査時より10.5ポイント減少しており、「ペットロス」という言葉そのものの認知度は高まっているものの、正確な意味は把握されていない例が増えているようです。

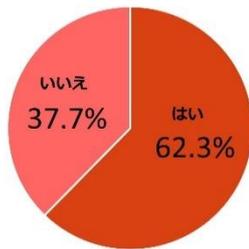
「ペットロス」という言葉を聞いたことはありますか？ (単一回答)



■ペットを亡くした際に「ペットロス」になった方は約6割、ペットロスの症状は多様

続いて、ペットと一緒に過ごしていたご自身や家族、同居人は「ペットロス」になったかを尋ねたところ、約6割の方が「ペットロス」になったと回答しました。また、「ペットロス」の症状としては、「突然悲しくなり涙がとまらなくなった」(60.3%)が最多で、他にも、「疲労感や虚脱感、無気力、めまい」「眠れない」「食欲不振、過食」といった多様な症状・状態に見舞われるようです。

ご自身や家族、同居人は
「ペットロス」になりましたか？



(単一回答、全体n=1,000)

ペットロスは、どのような症状・状態として現れましたか？ (複数回答)

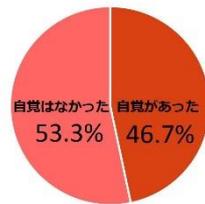


■ ペットロス、「自覚があった」は7割超と、前回調査より大幅増

また、「ペットロス」の症状・状態が現れた方の74.2%が「ペットロス」になっている自覚があったと回答しており、前回調査時と比べ27.5ポイントもの増加がみられました。「ペットロス」という言葉が浸透したことで、自身の状態が「ペットロス」によるものなのではないか、と認識するきっかけになっているのではないのでしょうか。

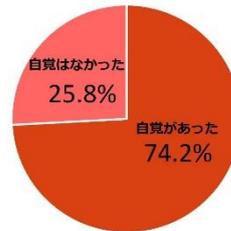
「ペットロス」になった方は、
自身がペットロスであることを自覚していましたか？ (単一回答)

2017年度調査



(自分自身がペットロスに陥った人n=242)

2023年度調査

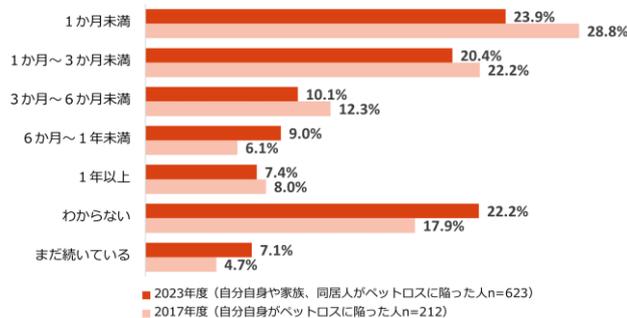


(自分自身や家族、同居人がペットロスに陥った人n=623)

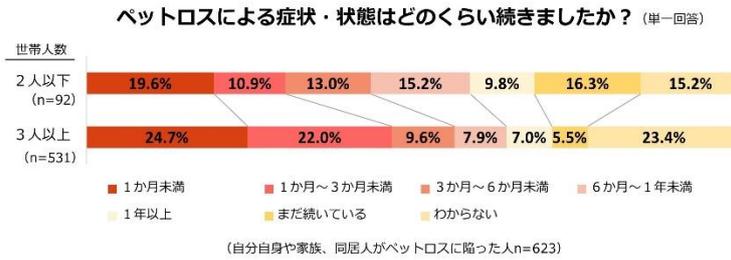
■ ペットロスの症状・状態は「1か月未満」もしくは「わからない」を選択する方が多数

「ペットロス」の症状・状態がどのくらい続いたかを尋ねたところ、「1か月未満」を選択した方が23.9%と最も多くなりました。ペットを亡くした悲しみは癒えずとも、「ペットロス」の症状は落ち着いていくようです。一方で「わからない」を選択した方も2割にのぼり、ご自身でも気づかないくらいゆっくりと回復していき、気づいた時には回復していたという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

ペットロスによる症状・状態はどのくらい続きましたか？ (単一回答)



また、「ペットロス」の持続期間は世帯人数によっても差異がみられ、世帯人数が2人以下の場合、3か月未満で「ペットロス」の症状が落ち着いた方は30.5%となった一方、世帯人数が3人以上では、46.7%が3か月未満で「ペットロス」の症状が落ち着いたと回答しました。3人以上の多人数で同居されている方が「ペットロス」の症状が続く期間が短くなる傾向があるようです。

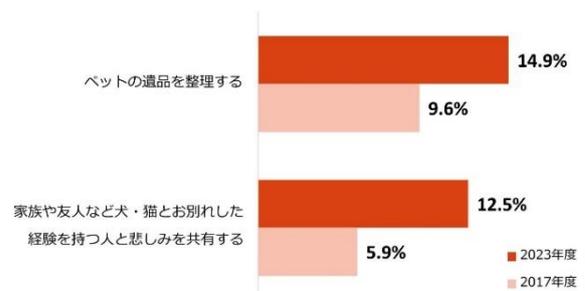


■ 悲しみを癒すきっかけとなるのは、「ペットを悼む気持ちを肯定」すること

ペットを亡くした悲しみを癒すきっかけとなった出来事として、43.5%(複数回答)が「ペットを悼む気持ちを肯定する」を選択しており、ペットの死を悼み、悲しみを肯定することで乗り越えようとする方が多いようです。



また、前回調査時と比べ増加したのは、「ペットの遺品を整理する」と「家族や友人など犬・猫とお別れた経験を持つ人と悲しみを共有する」でした。特に「家族や友人など犬・猫とお別れた経験を持つ人と悲しみを共有する」についてはほぼ倍増しており、家族や大切な人とペットが紡いだ「絆」がその経験を緩和することに貢献しているのかもしれない。



自由回答では「時間の経過が一番の解決方法」といった時間が経つのを待つという回答が複数寄せられたほか、「悲しみすぎると成仏できなくなる」「亡くなった悲しみよりも幸せだった多くの時間を覚えておくことに重きをおいた」といった回答がみられました。

■ ペットとの別れに後悔を感じている方は約6割、ペットと一緒に時間の過ごし方などに後悔

亡くなったペットに対して、後悔したこと/後悔していることはあるか尋ねたところ、約6割の方が「後悔していることがある」と回答しました。その理由としては、「もっと何かできたのでは」という漠然とした思い「一緒に時間の過ごし方」が上位となり、約半数(複数選択)が選択する結果となりました。自由回答では「家族との治療方針について」「安楽死の選択」「自分のミスで怪我をさせた事」といった記述がみられ、ペットが亡くなる原因となった病気やケガに関する後悔や、治療に関

する後悔を抱えている方もいらっしゃいました。

亡くなったペットに対して、後悔したこと/後悔していることはありますか？



(単一回答、全体n=1,000)

亡くなったペットに対して、後悔したこと/後悔していることはなんですか？ (複数回答)



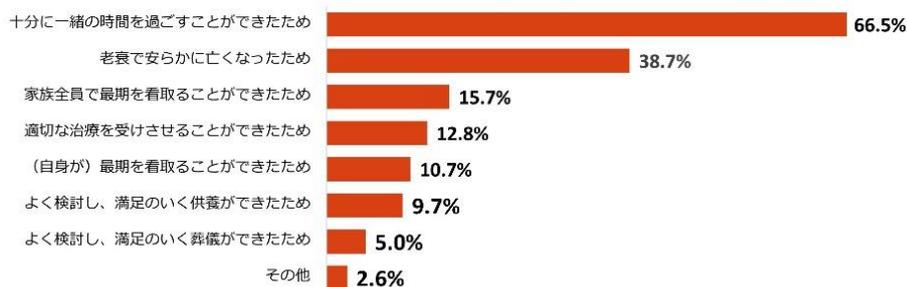
※全12項目中、上位5項目を抜粋

(亡くなったペットに対して、後悔したこと/後悔していることはあると回答した方n=579)

■ペットと後悔なくお別れできた方の66.5%は「十分に一緒に時間を過ごすことができた」から

一方で「後悔していることがない」を選択した方に、その理由を尋ねたところ、「十分に一緒に時間を過ごすことができたため」(66.5%)が最多で、後悔なくペットを看取るためには一緒に過ごす時間が重要であるようです。次いで「老衰で安らかに亡くなったため」(38.7%)が選ばれ、病気やケガと異なり、天寿を全うしたと受け止めることができたのかもしれませんが。

亡くなったペットに対して、後悔したこと/後悔していることが「ない」のはなぜですか？ (複数回答)



(亡くなったペットに対して、後悔したこと/後悔していることが「ない」と回答した方n=421)

■ペットは「家族」と捉える方が約8割、ペットとの暮らしは「学び」や「大きな喜び」のあるもの

あなたにとってペットはどのような存在だったかを尋ねたところ、77.5%の方がペットを大切な家族と捉えていました。

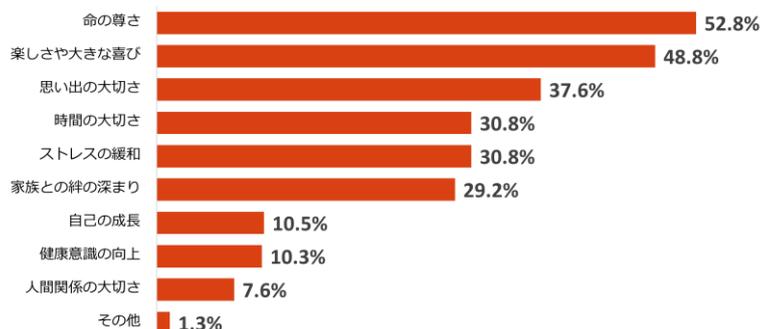
また、ペットと一緒に暮らすことで得られた経験や気づきとして「命の尊さ」「楽しさや大きな喜び」を知ったと答えている方が約半数(複数回答)となりました。家族の一員である大切なペットを亡くす悲しみはとて大きいものですが、ペットと過ごす時間の中で得られる学びや喜びも大きいものであることが伺えます。

あなたにとって、ペットはどのような存在でしたか？



(単一回答、全体n=1,000)

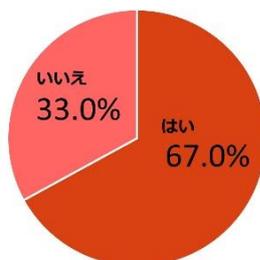
ペットと一緒に暮らすことで得られた経験や気づきなどはありますか？ (複数回答)



(全体n=1,000)

また、「機会があればペットと一緒に暮らしてみたいと思うか」との問いに対して、ペットを亡くす悲しみを知った方でも、約 7 割の方が「機会があればペットと一緒に暮らしてみたい」と回答しているところからも、ペットと過ごす時間の尊さを窺い知ることができます。

また機会があれば、
ペットと一緒に暮らしてみたいと思いますか？



(単一回答、全体n=1,000)

ペットと過ごすことで得られる学びや思い出、喜びはとても大きなものとなっているようで、「ペットは家族」と答えた方が多数を占めていたことから、ペットと人の絆の強さが感じられました。ペットとの別れは辛いことですが、残念ながら避けては通れません。今回の調査では、後悔のない別れをすることができた方の約 7 割が「十分に一緒に時間を過ごすことができたため」と回答しました。ペットと共に健やかに過ごせる時こそ、一緒に過ごす時間を十分にとることを心掛けるとともに、病気やケガの備えを万全にし、皆さまの大切な家族であるペットの生涯とその健やかな暮らしが少しでも後悔なく続くよう、ペットと過ごす時間を充実したものにしていいただければ幸いです。

アイペットでは今後も、ペット保険の提供を通じ、「ペットと人が共に健やかに暮らせる社会」を目指して、より一層の努力を続けてまいります。

以上

【調査概要】

調査対象：犬・猫を亡くした経験をお持ちで、現在はペットと一緒に暮らしていない男女 1,000 名
調査期間：2023 年 9 月 5 日～8 日 調査方法：インターネットによるアンケートを実施

■会社概要

商 号：アイペット損害保険株式会社
代 表 者：代表取締役 執行役員社長 安田敦子
所 在 地：〒135-0061 東京都江東区豊洲 5-6-15 NBF 豊洲ガーデンフロント
設 立：2004 年 5 月
事 業 内 容：損害保険業
資 本 金：4,619 百万円(2023 年 3 月 31 日現在)
U R L：<https://www.ipet-ins.com>